

石川町

議会だより

No. 198

平成31年 2月1日

発行／石川町議会
編集／石川町議会広報
編集特別委員会



▲全国高校駅伝大会 悲願の3位入賞へ

2018
12月定例会

- P2 **12月定例会 審議結果**
- P4 **紙上中継(常任委員会)**
- P5 **12月定例会 一般質問**
(町政をたず)
- P10 **あれからどうなった?**
(一般質問のその後は)
- P11 **議会の活動、政策提言書の提出**

旧中二小校舎の改修決まる

12月 定例会



▲旧中谷第二小学校

平成30年12月定例会は、12月6日から13日までの8日間の会期で開かれ、条例案件6件、補正予算5件、規約改正1件、協約締結の協議1件、人事案件1件、請願3件、議員発議4件の合計21件を審議しました。
一般質問には、5人の議員が登壇し、町政を問いました。また、39人の傍聴がありました。

一般会計補正 予算の主なもの

今回の補正は、国庫補助金の内示を受けて実施する旧中谷第二小学校の改修事業費のほか、職員の定期異動等に伴う人件費、事業費の確定に伴う不用額等について、前年度からの繰越金等を主な財源に補正を行い、既定予算と合わせて、歳入歳出予算の総額を72億15万3千円とするものです。



賛否の討論①

◎議案第70号

石川町立図書館設置条例の制定について

反対 町立図書館の設置に反対するのではなく、より良いものにしていきたいことから今回の条例では不十分であると考えてます。

一点目は文教福祉複合施設の中の設置される図書館であるので、文教福祉複合施設設置条例と一体のものでなければならぬこと。

二点目は、図書館を町民と共に育てていくように図書館協議会を設置して運営すべきであり、協議会を明記した条例にすべきであること。

三点目は、図書館の運営方針について精査中であることから、方針が固まってから条例を制定すべきではない

かと考え反対します。
(渡辺実)

賛成 四月に開館したいという執行部の意見を尊重します。これから新たに図書館運営協議会を設置しながら運営を協議し、条例を制定するには時間的な余裕も無いと考えます。既存の運営委員会において進めながら、その後、運営協議会を設置するという執行部の考えに賛成します。
(近内雅洋)

◆審議結果「原案可決」

賛成	反対
近内 瀬谷(寿) 小木 増子 草野 関根 永沼 瀬谷(京) 矢内 中村 山田	根本 渡辺

議案・請願・発議 審議結果

議案番号	議案・請願・発議	審議結果	
議案 第70号	石川町立図書館設置条例の制定について	原案可決	賛成多数
議案 第71号	石川町議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第72号	石川町長等の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第73号	石川町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第74号	石川町地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第75号	石川町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全 員
議案 第76号	平成30年度石川町一般会計補正予算（第3号）	原案可決	全 員
議案 第77号	平成30年度石川町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	原案可決	全 員
議案 第78号	平成30年度石川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	原案可決	全 員
議案 第79号	平成30年度石川町介護保険特別会計補正予算（第3号）	原案可決	全 員
議案 第80号	平成30年度石川町水道事業会計補正予算（第2号）	原案可決	全 員
議案 第81号	福島県市町村総合事務組合規約の一部を改正する規約	原案可決	全 員
議案 第82号	郡山市と石川町との連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議について	原案可決	賛成多数
請願 第11号	被災者生活再建支援法の改正を求める請願	採 択	全 員
請願 第12号	沖縄県名護市辺野古における米軍新基地建設の中止を求める請願	採 択	全 員
請願 第13号	相次ぐ災害に対する特別交付税の増額を求める請願	採 択	全 員
議案 第83号	石川町副町長の選任について	同 意	全 員
発議 第11号	石川町議会会議規則の一部を改正する規則	原案可決	全 員
発議 第12号	被災者生活再建支援法の改正を求める意見書	原案可決	全 員
発議 第13号	沖縄県名護市辺野古における米軍新基地建設の中止を求める意見書	原案可決	全 員
発議 第14号	相次ぐ災害に対する特別交付税の増額を求める意見書	原案可決	全 員

賛成の討論②

◎議案第82号

郡山市と石川町との連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議について

反対 連携中枢都市圏は、国が法律に基づいて設け、人口一万人前後の自治体の継続を検討し、道州制への移行と捉えます。また、中枢都市と市町村とが対等な関係では無く上下の関係になることを危惧します。その結果、中枢都市への集積が進み、町村の空洞化が進行する恐れがあり、憲法に謳う団体自治や住民自治の観点からも自治権の侵害だと考えます。石川町は、まちづくりを町民と一体となつて取り組んでいますが、自治体に係る重要な問題が、住民の合意形成が無いまま協約

締結に進むことに問題があるため、私は反対します。（中村孝太郎）

賛成 今後、全ての事業を町が単独で出来るかどうか難しい状況にあります。人口減少、少子化、財政の縮小は明らかであり、広域で出来る事業は広域での考えを持たなければなりません。大都市への人口流失も、連携市町村圏内に留まらせる人口ダム機能も果たし、議会のチェック機能も果たせるため、私はこの協議について賛成します。（根本重泰）

◆審議結果「原案可決」

賛成		反対	
根本 近内	草野 関根	矢内 山田	永沼 瀬谷(京)
小木 増子	中村		
	渡辺		
	瀬谷(寿)		



総務産業建設常任委員会

郡山連携中枢都市圏とは何か

郡山連携中枢都市圏とは、郡山市とその周辺14の市町村（須賀川市、田

村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平

▶ 郡山連携中枢都市圏エリアマップ



田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町）が、人口減少の進む社会にあっても、活力ある地域経済を維持していくことを目的に、お互いの強みを活かし、弱みを補いながら事業に取り組む都市圏のことを言います。今後は、郡山市と連携す

る全ての市町村において、「連携協約」の締結を予定し、3月末には取り組む内容をまとめた「都市

圏ビジョン」を策定、平成31年度以降事業に取り組みことを予定しています。

完成した泉橋(愛称…牛乳橋)は自動車では渡れないのですか？

泉橋は、旧役場庁舎跡地に整備された「まちなか駐車場」と復元された「鈴木重謙屋敷」をつなぐ、「まちなか散策ルート」として位置づけられています。景観を活かした木橋で幅員も狭く、利用者の安全を確保するため、「歩行者と自転車専用」となりますので、ご協力をお願いします。



▲完成した泉橋

Q 水道事業の財源を問う

A かなり厳しい事業費になると思う



近内 雅洋 議員

質問 単独事業でなく

答弁 32年度に10%、35年度に15%の料金を、上乗せする計画となっています。

質問 水道料金は、人口減少も見込んでいるのか。

答弁 浄水処理方式は今よりも向上し、また、水質もある程度改善できます。

質問 今の水源地でおいしい水を提供できるのか。



▲老朽化が進む母畑浄水場

要望 郡山連携中枢都市圏の中に水道事業を盛り込み、余剰水がある郡山市、須賀川市との広域化を進めて欲しい。

答弁 第6次総合計画において上水道事業の広域化を掲げており、関係機関と協議を重ね効率化を目指します。

補助金 の出る広域化を進めるべきと思う。

質問 大学、実業団運動部の合宿誘致は出来ないか。

答弁 東洋大学の酒井監督等と話をしながら、なるべく有効活用をしてもらえるように相談します。

質問 部活動の保護者の負担を軽減できないか。

答弁 中学校の部活動で保護者負担も相当な

Q スポーツを通して人口減少対策が出来ないか

A スポーツを通じた交流を推進していくことを施策の基本目標とし「スポーツのまち、いしかわ」というPRが図られることで、人口減少対策に繋がればと考えています。

ものになっていきます。子育て支援施策の一環としてPTA会費等の学校徴収金に係る保護者負担の在り方について見直しを進めています。

要望 スポーツで町が有名になっている。強くなるためには町の支援も必要と思う。

Q 鉱物館整備構想について伺う

A 鉱物館は公民館の改修も含め幅広く検討していきます。改修費の想定は6億円とされており、リフォームよりも新しいものと考えています。

要望 教育的な側面だけでなく町おこしに繋がるよう考えて頂きたい。

Q 不妊治療費に町の助成を

A 県助成にかさ上げ助成を検討する



瀬谷 寿一 議員

● 少子化対策について

質問 子育て世代への安価な住宅、宅地の供給を。

答弁 固定資産税相当を助成するなど31年度から抜本的な対策をとりたいと考えています。

質問 若者に石川町の子育て支援のアピールを。

答弁 重要なことだと思えます。具体的な整備年度を明記してアピールします。

質問 第三子以上に手厚い支援を。

答弁 町としてできる

支援を今後検討します。

● 観光交流事業の振興について

質問 入湯税を観光事業に戦略的に活用すべき。

答弁 民間が主体となった観光まちづくりへ提言を受けながら、積極的な活用について検討します。

質問 山橋のフットパ



▲北荒川区立第三日暮里小学校で創立100周年記念事業のひとつとして取り組まれた「中田のささら」三匹獅子舞

ス、中田の人馬ウオーケなど町内各地で行われているウオーキングを観光に使えないか。

荒川区は、戦中の学童疎開を縁に交流をしており、今年も幼稚園関係者や自治会役員などが石川町を訪れています。更に交流を深めていきます。

質問 観光協会を法人化できないか。

要望 定期的にも私たちの交流ができるような仕組みと事業を検討してほしい。

答弁 観光協会を強化することを念頭に「道の駅」の中に入れることを考えています。

● イノシシ被害対策について

質問 姉妹都市などとの交流を積極的に進めたい。

答弁 お互いの観光資源を有効活用しながら、人的交流など新たな事業として検討します。

質問 荒川区、角田市との具体的な交流は。

答弁 電気柵補助金は、申請額が少ないので、本年度の成果を検証し、補助率を検討します。

答弁 角田市からは、道の駅に石川町の特産品を出してほしいと要請がありました。

また、捕獲助成金については、石川地方協議会の中で提案をしていきます。

Q 公民館存続の考えは

A 文教福祉複合施設の運営、公民館のあり方を検討する



渡辺 実 議員

質問 文教福祉複合施設の管理運営方針は。

答弁 施設全体は教育委員会で管理し、生涯学習施設と図書館は教育委員会が運営、子育て支援施設は保健福祉担当部局が運営し、運営協議会も設置します。

要望 教育委員会は学校教育と社会教育・生涯学習の推進が大きな機能。今回の社会教育・生涯学習部門職員の複合施設配置は、再検討を。

質問 図書館経営方針は。

答弁 図書館経営方針は、司書を配置し、

有効活用を図るとともに、図書運営委員会を設置します。

質問 司書の配置は民間委託で運営するのか。

答弁 民間委託で対応します。

質問 丸投げになる。司書の職員配置の考えは。

答弁 良く、整理します。

要望 図書館法の図書館協議会の設置を。

質問 公民館存続の考えは。

答弁 複合施設に公民館機能を移行します。

要望 社会教育や生涯学習を推進する機関がなくなる。公民館と生涯学習施設の両方を設置することを提案します。

◀石川町公民館



Q 10年間の重点施策は

A 子育て、道の駅、鉱物館、企業支援などを推進します

質問 今後、10年間の重点施策は。

答弁 子育て施策の充実、道の駅の整備、企業誘致や既存企業の支

援、生涯学習の推進と鉱物館の整備、消防・防災の充実、住環境の整備、地域づくりを推進します。

質問 人口減少対策の重点施策は。

答弁 子育てと定住・移住施策を進めます。

質問 関係人口拡大の取り組みは。

答弁 再度、精査します。

質問 地域づくりで格差のない支援を。

答弁 公平に支援します。

Q 除雪方針は

A おおむね15cm以上の時に除雪します

質問 1戸〜数戸集落の除雪の考えは。

答弁 地域の協力も得ながら対応します。

Q 31年度の保育所及び児童館の保育体制は

A 保育補助員などで十分な保育体制を確保



中村孝太郎 議員

質問 30年度の保育体制についてですが、保育現場では以前から保育士の確保に大変苦労していることを聞いています。保育体制の確立は保育児童の安全と保育従事者が安心して働ける環境づくりに欠かせないものです。31年度の保育体制について伺います。

答弁 来年度の保育を必要とする児童数は現在214名ですが、年度途中の入所により施設によっては保育士の配置を手厚くしなければならぬ状況も予想されます。こうした状況を踏まえ、正保育

士17名に加え、嘱託保育士、保育補助員を合わせて14名の配置が必要と考えています。

要望 保育現場の負担にならないようお願いします。

質問 石川小学校のグラウンドですが、大雨の時に調整池の機能を果たす構造になっていることから、大雨になると二三日はグラウンドが使えません。子どもたちの学習活動や学校生活に支障をきたすようでは問題です。

石川小グラウンドの降水時の状況と改善策を伺います。

答弁 石川小グラウンドは、建設時の開発行為申請にあたり、雨水の流出抑制対策としてオンサイト方式が採用され雨水がグラウンドに貯留するため、一面が冠水することもあり



▲雨水が貯留した石川小グラウンド

ます。これまでも暗渠や外周整備工事など行ってきましたが、今後、側溝の堆砂除去など、児童の日常活動に支障のないよう努めます。

要望 子どもたちを第一に検討をお願いしたい。

質問 郡山連携中枢都市圏ですが、これまでの基礎自治体の在り方の見直しと、将来の道州制への狙いを多くの専門家が指摘し、ステ

ルス合併と言われています。

郡山連携都市圏の内容と基礎自治体の権限の縮小にならないのかを伺います。

答弁 連携中枢都市圏は、人口減少社会でも一定の圏域人口を有し、活力ある地域経済の維持を目的に形成されるものです。現在の制度の枠組みでは基礎自治体の権限の縮小に直接繋がるものではないと考えています。

Q 地域おこし協力隊は各地で成果を。本町で導入の考えは

A 導入を図るべく他自治体の事例を参考に検討しています



瀬谷 京子 議員

質問 交流人口

増を図るおもてなし対策として、街中の美化、河川のごみ、中洲の除去の考えは。

答弁 美化につ

いては、町民の皆様が協力が不可欠であり、一人一人の環境美化意識の高揚を図っていきます。

中洲の除去は、今年度中に石川土木事務所により古町宮橋から下流及び松木下地内松岡橋から下流の堆砂除去が予定されています。

質問 町民や来訪者の



▲有効利用が望まれる広告塔

為にも案内板や標識が不足して不親切。まちなか駐車場や重謙屋敷など通りに看板設置を。クリスタルパーク入口の塔も利用促進を。

質問 まちなかの危険

答弁 所有者に安全対策、最終的な除去をお願いしていますが課題もあり今後検討します。

質問 町の魅力を発信

答弁 電子機器等だけ

強化すべきと思うが。

でなく多様な媒体や人的ネットワークを通して情報発信を図っていきたくと考えています。

意見 メディアにはど

んどん催事などの情報を流してPRすべき。

Q 町内に従業員30人

以上の企業は。

A 31事業所で、うち製造業等は13社です。

質問 既存企業支援の

具体策は。

答弁 新規創業や増設

に企業立地奨励金の交付や販路拡大のための助成、3年間固定資産税ゼロにして設備投資の促進を図っています。

質問 既存企業にあと

10人雇用をお願いする

と言うが具体策は。

答弁 地元の若者を雇用した場合は補助金を出すなど、若者の定着に

つなげたいと思います。

質問 古館と谷津団地の

未売の土地を若者に特化して売り出すとのことだが価格は。

答弁 既に行った人との

の公平性から、土地は支援できないが何らかの支援を検討します。

質問 地域おこし協力

隊を導入する考えは。

答弁 都市地域からの人材を協力隊として委嘱し、地域活動に従事しながら定住を図るもので、県内では県を含め40の自治体で116人の隊員が活動しています。6次化産業の推進や道の駅業務、観光振興など多岐にわたり地域の活性化に役割を果たし退任後は赴任地と県内に64%が定住しています。

質問 本町の人口減少対策

交流人口の増加に寄与するため、導入を検討しています。

しています。

閉校から3年 施設の利活用決まる

旧中谷第二小学校の地元である中田行政区では、廃校の利活用を検討する委員会を設置し、平成27年度から2カ年に渡り、調査や視察研修、またモニターツアーやシンポジウム、1日レストランの実証実験を行いながら、廃校施設を有効に利活用するための検討を行ってきました。

こうした経過を経て、平成29年12月に、地元の有志により「一般社団法人ひとくらす」が設立され、各種体験教室の開催や簡易宿泊施設の運営、民間への賃貸管理等の事業を行い、地域の活性化を図ることをまとめた「利用計画書」が、平成30年10月、町に提出されました。

町は、「廃校施設の利活用に関する基本方針」に基づき、利活用計画を審査し、校庭、体育館を除く校舎棟を無償で貸し付ける決定をしました。貸し付けにあたっては、トイレ、浄化槽、屋根の雨漏り箇所等を修繕し、その後、同法人に貸し付けることを予定しています。



▲オープントークの様子

一般質問のその後は

あれからどうなった？

平成28年12月
定例会より



◀1日レストランの実証実験

報告します 議会の活動

初めての全議員による 予算審査を実施

今回の12月定例会からは、予算審査の向上と議会活動の更なる充実を図るため、「予算審査特別委員会」を設置し、補正予算の審議を行いました。

このような審査方法は、



▲特別委員会での補正予算審査状況

議会改革や活性化を図る目的として、県内でも多くの自治体で既に取り組まれており、今後も各定例会においては、特別委員会を設置して予算・決算の審査を行って参ります。

議会運営委員会

議会運営委員会では、今後の議会活動並びに議会運営の参考とするため、埼玉県滑川町・群馬県下仁田町において「議会基本条例の制定」及び「議会改革・議会活性化」について所管事務調査を実施しました。



●実施日

平成30年11月19～20日

●参加者

委員長	渡辺 実
副委員長	根本 重泰
委員	近内 雅洋
委員	増子美知夫
委員	山田 英重
議長	下山田和雄

◆研修内容
議会基本条例の制定につ

いて

- ① 制定の理由、目的
 - ② 制定までの経過、条例制定に向けた検討組織
 - ③ 条例の概要、特色
 - ④ 運用上の課題等
- ◆議会改革、議会活性化について
- ① 具体的な取り組み
 - ② 今後の見通し

石川地方町村 議会議員研修会

11月12日マールベラス末広（玉川村）で開催された石川地方町村議会議員研修会は、石川地方の議員や町村長など71名が参加し、福島大学行政政策学類教授の今西一男氏より「人口減少問題と今後のまちづくり」について研修して参りました。



へ政策提言書を提出



早期の決断実行を要望

■ 県立石川高校を存続させるための自治体の効果的な取り組みについて (文教厚生常任委員会)

1. 課題 ①就職割合が50%強に対応する学科の新設検討
②大学進学希望者に対応できる高校として学力アップの支援検討
2. 提言内容 (1)資格取得可能な学科増設の取り組み
(2)周辺町村と連携した就職対策の強化
(3)小規模校の特性を活かした県内トップレベルを目指す部活動推進
(4)普通科の高校として、大学進学者の増加を目指す取り組み

3. おわりに

県立石川高校の存続は、極めて難しい課題ではありますが、本町が重点的に取り組んでいる少子化対策の要の一つともなりますので、支援可能な施策に積極的に取り組まれるとともに、地域住民と一体となって、県教育委員会に対し存続を要請していくことを強く望むものであります。

議会では活動の充実と町民の議会参加を促進するため「議会報告と町民の意見を聞く会」を開催し、参加者からいただいた議会活動に対する意見や町政に対する要望等を整理し、各常任委員会による調査・研究を行った2件について、町長へ政策提言書を提出しました。

■道の駅整備について（総務産業建設常任委員会）

1. 課題 ①この10年の人口・経済活動の衰退
②一次産業の衰退と直売農産物生産者育成
③若者の減少と雇用の確保
④情報発信力の弱さと観光物産協会の強化
2. 提言内容 (1)「石川町らしい魅力ある道の駅とは何か、何を求める道の駅なのか」十分な議論を行い、揺るぎ無いコンセプトを作ること。
(2)道の駅は石川町の産業（農・林・畜・商・観）を育てていく場であり、その仕組みを確立すること。
(3)情報発信が弱いといわれる石川町の情報発信（シティセールス、ゲートウェイ機能）施設としての機能を高めること。
(4)施設は一体型。その規模は、敷地面積2ヘクタール以上、駐車台数200台以上で、国道118号と石川バイパスの結節地点に近い場所への建設が望ましい。農産物直売所・物産品販売所、防災施設の設置を検討すること。
(5)準備室の立ち上げと駅長の人選を最優先課題とすること。

3. おわりに

今、道の駅は「第二の役場」とも呼ばれ、地域づくり・地域再生の手法として取り組む地域が増えています。石川町の道の駅が本町の課題解決型の施設となることを望みます。財政負担も大きいこの事業が、十分に議論され、地域振興の拠点・石川町の顔となることを期待します。

未来に向かつて ・ 高校生の声

県立石川高校

3年 阿部 光汰



阿部光汰さん

私は、小さい頃から石川町に貢献できる仕事に就きたいと思っており、高校生になってからは公務員として町役場に勤めたいと考えようになりました。そこで専門的な知識が必要だと考え、大学進学を目標としました。そのかいあって、先日、東北学院大学に合格することができました。私が経済学科を選んだ理由は、石川町の財政面でできるだけ貢献したいと考えたからです。

す。人口の減少とともに税収も減っていく石川町の現状を少しでも良くしていきたいと思いました。税収が増えれば、高齢者の介護サービスや子育ての支援などが十分に行えるはずですが。しかし、今の私は経済について知らないことがたくさんあるので、大学で深く学び、知識を身に付けたいと思います。そして、進学後は経済について学習することは勿論ですが、英語にも力を入れて行きたいと考えています。これから世の中がグローバル化し常に世界を意識していかなければなりません。その意味でも英語はこれから必要不可欠なものであると思っ

たからです。大学では今以上に勉強に励み、誰もが住みたくなくなるような石川町の町づくりができるよう努めたいと思っています。子どもから高齢者までが安心しやすかつ便利に生活ができるような石



川町になるよう、自分ができることを精一杯頑張りたいと考えています。

議会を傍聴 しませんか

3月定例会「一般質問」は3月11日(月)の予定です。

議会広報編集 特別委員会

委員長	根本 重泰
副委員長	瀬谷 寿一
委員	近内 雅洋
委員	小木 芳郎
委員	増子美知夫
委員	山田 英重

編集後記

平成最後の年、31年がスタートしました。昨年は石川町にとって明るいニュースが続きました。ふくしま駅伝では、選手全員の頑張りによる町の部3年連続優勝、総合の部では各市を破り2位と大健闘しました。また、全国高校駅伝大会では、学法石川高校男子が県勢過去最高記録で3位に入賞し、私も現地で

応援し大感激をいたしました。

また、本町におきましては、第6次総合計画の原案も提示されましたが、若者の定住化や子育て支援など、石川町に住みたくなる魅力をどう図っていくのか皆で考えていくことが大切な事であると考えております。今年も元号も変わりますが、石川町にとって良い年になりますようお願いしております。

山田英重